

のぼりバツ

広報

12/1

1996

No.554



主な内容

- ・登別市の行政改革
- ・市民レポート「市立図書館の児童室について」
リポーター 伊藤光子さん
- ・秋の叙勲・褒章 受章者の紹介
- ・きらり 清掃奉仕で地域に貢献
鈴木光次さん

11月24日(日)、登別温泉の閻魔堂えんまどう前で、金婚式がとり行われました。

この日、各地から応募のあった金婚式を迎える夫婦10組が集い、閻魔様の前で、お互いに50年間連れ添った労苦をねぎらい、これからも仲良く共に生きようと、誓いを新たにしていました。

簡素で効率的な行政システムの確立

をめざして

登別市の行政改革

行政改革って何だろう

みなさんが登別市に望むことは何ですか？

道路や下水道など快適な住環境の整備。お年寄りや障害者、児童の福祉の充実。地域産業の活性化。教育や文化・スポーツの振興。職員の親切的対応……。まだまだ、たくさんあるでしょう。

みなさんが望む登別市に近づぐために、まず、市役所内の仕事を今一度見直し、古い体制のために無駄が出ていると思われる部分を無くし、改善しなければならぬことは改善し、新しい社会環境に対応するため行政（市役所）全体を改革すること。

それが、登別市の行政改革です。

市役所も

変わらなきや

「ひとが輝き まちがときめく ふれあい交流都市 のほりべつ」
（新総合計画キャッチフレーズ）
を実現するため、今、市役所が変わらなければなりません。

限られた財源と、限られた人員の中で、どのようにしてみなさんのニーズに添えていくか。

そのことを表したのが、平成7年11月に定めた「行政改革実施計

登別市行政改革の 取り組み経過

- 平成6年12月
市民の代表による「登別市行政改革推進委員会」設置
- 平成7年2月
「登別市行政改革基本方針」策定
- 平成7年11月
「登別市行政改革実施計画」策定
- 平成8年4月～平成13年3月
行政改革の実施

画」です。

この計画は、今年度から平成12年度までの概ね5年計画でつくられています。つまり、平成12年度が終わる西暦2001年、21世紀を目標に、「簡素で効率的な行政システムの確立」をめざして、今年度スタートしました。

目前に控えた21世紀に向かって、市役所がより良く変わるために、職員一人ひとりが市民のみなさんの立場に立ち、市役所内が一体となって取り組みます。



◆ ◆ ◆
今年度の行政改革実施計画の取り組み状況については、3ページ以下のとおりですが、行政改革は、市役所内部で処理できるものばかりではありません。

項目によって、市民のみなさんや関係団体などと十分協議しながら進めていきます。

行政改革の取り組み状況や新たな取り組み内容については、これからも「広報のほりべつ」などを通じてお知らせしていきますので、みなさんのご理解とご協力をお願いします。

行政改革に関する

問い合わせ

行政改革推進室

(☎ 85 5 1 0 9)

市は、行政に対する意見や要望などを随時、お受けしています。

▼行政に対する要望など

総務課 (☎ 85 1 1 3 0)

FAX (☎ 85 1 1 0 8)

行政改革の取り組み状況

事務事業の見直し

①(財)登別市文化・スポーツ振興財団の設立



▲平成8年3月設立された財登別市文化・スポーツ振興財団の事務室

文化・スポーツの普及と振興のため、今年3月、(財)登別市文化・スポーツ振興財団を設立しました。

②町内会への助成事業の見直し

町内会活動を支援するため、今年度は、連合町内会役員の研修会参加費用や町内会役員の傷害保険加入費用、また、事務局職員の賃金を負担しました。各町内会に対しては、平成9年

度から新しい基準に基づいて、助成金を交付します。

③庄着貼り合わせはがきの導入



▲今年度から導入された庄着貼り合わせはがき

郵送料の削減やプライバシーの保護などのため、税などの口座振替に伴う領収書や督促状、催告書の送付に、今年度から庄着貼り合わせはがきを導入しました。

地域おこしイベント事業の支援を制度化するため、平成9年度、(仮称)いきいき推進奨励事業を創設します。

⑤自主文化事業の見直し

自主文化事業の一部を(財)登別市文化・スポーツ振興財団に移行し、より優れた芸術・文化を市民のみなさんに提供します。財団ではこれまで、劇団四季「雪ん子」や児童劇「まぬけな山賊たち」の公演、クローアア支援のピアノコンサートなどを行いました。



▲12月4日に財団の主催で行われる「はまキと洋カルテット」クリスマスコンサート。

めるため、移転・統合について検討しています。これまで、町内会の代表者やPTAに対して説明会を行いました。が、さらにこれからも、統廃合の理解が得られるよう、説明などを行い、意見や要望、問題点の把握に努めます。

⑦市立幼稚園の見直し

市立幼稚園は、富士・若草・登別温泉の3園とも定員割れが続ぎ、また老朽化が進んでいるため、児童の受け入れ体制や公私格差の是正など、私立幼稚園との関わりの中で、廃園の方向で検討します。

市民と行政が議論のできる組織づくりを



行政改革推進委員会委員
橋本賢一さん(富士町)

行政改革については、やって当然だと思います。遅すぎたくらいですね。

市民のための行政改革なので、何が本当に必要なかを見極めて、無駄な部分は削り、市民に直接関わる部分については、どう影響するのかを明らかにしてほしい。

まちづくりは市民と行政との共同作業ですから、新総合計画に基づいて、市民のすることと行政のすることをきちんと区別しなければなりません。

この行政改革で、市民と行政が同じ土俵で議論のできる組織づくりを望みます。



▲地域おこしイベントのひとつ「大地の祭典」の様子

④(仮称)いきいき推進奨励事業の創設

⑥小・中学校の見直し

登別温泉小学校、登別温泉中学校、札内小中学校の児童・生徒数は減少が見込まれ、教育効果を高



▲札内小中学校



▲富士幼稚園

行政改革の取り組み状況

事務事業の見直し

⑧ 保育所の見直し

市内8カ所の保育所は、いずれも大幅な定員割れとなっているため、移転改築も考えながら保育所の統廃合を検討しています。

今年度は、美園保育所を鷺別保育所に統合しました。平成9年度以降は、新たな保育施設の設置を考えながら、登別温泉・登別・富浦保育所の統合を検討します。

また、保育事業の充実のため、今年度から鷺別保育所の延長保育を始めたほか、室蘭市や白老町の児童の相互受け入れなどについても検討を始めます。



▲延長保育も行われている鷺別保育所での老人クラブとの交流会の様子

⑨ 鉾山簡易郵便局の見直し

鉾山簡易郵便局は、利用度が少ないため、地域住民と協議し、今年3月末に廃止しました。

⑩ 鉾山バスの見直し

鉾山バスは利用度が少ないため、地域住民と協議し、平成9年3月で廃止することになりました。



▲今年度末で廃止される鉾山バス

⑪ 各種使用料・手数料の見直し

各種の使用料金については、今年4月、し尿処理手数料の改正を行いました。現在、平成9年度の改正に向け、集会施設使用料や水道料金などの見直しを行っています。

⑫ 行政手続制度の適正な運用

行政運営の公正の確保と透明性の向上を図り、市民の権利・利益を保護するため、本年度中に行政手続き条例を制定する予定です。これにあわせて、許認可の申請書などの簡素化も検討します。

⑬ 民間委託の推進

業務効率や市民サービスの維持などを総合的に判断しながら、民間委託を計画的に進めています。今年4月からは、市民会館・総合体育館・市民プールの管理業務を(財)登別市文化・スポーツ振興財団に委託しました。これにより、市民会館・総合体育館は年間を通じて利用できるようになりました。

今後は、青少年会館・陸上競技場・市営プール・川上公園野球場などの管理委託を検討しています。



▲物登別市文化・スポーツ振興財団による市民会館の受付

⑭ 広域行政圏の活用

登別市・室蘭市・伊達市の3市による共同プロジェクトの検討作業などの体制づくりをより一層進めます。

今年度からは、下水道汚泥処理に関する共同研究、ホームヘルパー養成研修、広域住民票交付の可能性の検討、図書館情報ネットワークづくりの可能性の検討、北海道総合行政情報ネットワークの活用に取り組んでいます。

⑮ 補助金などの見直し

各種団体や事業に対しての補助金・助成金などについては、時代の変化に合わせて、支援の目的や自主自立の可能性、行政効果などを総合的に判断し、見直しを行います。

⑯ 一課一事業の見直し

現在の社会情勢や行政効果などの観点から、定期的に各課ごとに自らの業務を見直すことを制度化しました。

その内容については、行政改革推進本部で改善や廃止などを検討します。

時代に即応した組織・機構の見直し

① 組織・機構の見直し

時代に合った組織・機構づくりを行うため、総合調整機能と横断業務処理体制の充実、応援体制の確立などスリム化を図るとともに、新規事業の業務量などを考えながら、組織・機構の整備を進めています。

② 調整機能の整備

一部一課では処理できない業務や、市が全庁的に取り組まなければならない業務に的確な対応をするため、今年4月に横断業務調整組織要領を定め、協議体制を整備しました。



住んでよかったと思えるまちづくり のための行政改革を



行政改革推進委員会委員
石本弘子さん（柏木町）

この委員になってはじめて、行政について関心を持つようになりました。

行政改革については、行政も市民も自助努力をもっとして、つめるところはつめて、限られた予算を本当に必要なところにきっちり使うようにしてもらいたいですね。

例えば、老人福祉施設を充実させたり、郷土資料館に学芸員を採用するなど、福祉や教育に力を入れてほしいです。

また、このような審議会などは公募制をもっと取り入れて、地域住民の声をよく聞き、市民が幸せだと思えるまちをつくってほしいです。



③ 外郭団体などへの 職員派遣の見直し

他の団体などへの職員派遣は、その目的と効果を常に考えながら、派遣期間や終期設定を検討していきます。

④ 地区防災担当職員の 設置

災害時におけるお年寄りなどの弱者を避難・誘導するため、今年5月に登別市地区防災担当職員設置要綱を定め、市職員を防災担当員として、津波・がけ崩れなど危険区域ごとに設置しました。今後は、災害弱者の把握と居所

図を作成し、避難体制づくりを検討します。



▲地区防災担当職員の指名通知書交付式の様子

⑤ 職員の流動体制の整備

部や課を越えた相互応援を円滑に行うため、今年4月に登別市職員の流動体制要綱を定め、臨時的流動体制を確立しました。

定員管理及び給与の適正化推進

① 職員定数の見直し

職員数は、平成12年度の目標を570名として削減を図ります。平成8年4月の職員数は583人で、平成7年4月に比べ、7人の減少となっています。

② 給与と制度の見直し

国家公務員の支給基準との比較を行うとともに、他市の状況を考えながら諸手当などの見直しを行っています。

効果的な行政運営と職員の能力開発などの推進

① 職員参加の目標による 行政運営

職員それぞれが、より効果的に業務を推進するため、今年4月に登別市職員参加の目標による行政運営実施要綱を定め、事務執行の体制づくりを行いました。

② 職員の能力開発などの 推進

職員の政策形成能力や創造的力を開発するため、現行の研修のほか、民間企業との合同研修、テーマを定めた管理職研修、若手職員のグループ研修などを行い、職員の意識と能力の向上を図っています。

行政の情報化の推進などによる行政サービスの向上

① OA基本計画の見直し

社会情勢の変化に対応し、地域の情報化を一層推進するため、内部情報の整備後、外部に向けての取り組みを行うこととして、OA基本計画の見直しを行っています。

② 窓口サービスの向上

窓口サービスの向上と利便を一層高めるため、市役所本庁舎では今年4月より総合案内を設置しま



▲今年度から設置された総合案内

した。また、電話による諸証明などの交付申請や、電話で受け付けた証明の時間外交付も行っています。

会館など公共施設の設置及び管理運営

① 会館などの公共施設の 適正な管理運営

会館などの公共施設については、施設のあり方や配置箇所などに

いて示した公共施設の整備方針に基づき、類似施設の統廃合を図りながら、効率的な管理運営を進めるとともに、民間委託可能な施設の管理委託を進めています。

『市立図書館の児童室について』



市民リポーター
伊藤光子さん
(千歳町・39歳)



近ごろ、みなさんやみなさんのお子さんは、図書館に足を運ばれているでしょうか。

私は、図書館へ息子と娘を連れて通ううちに、「おはなしほけつ」と(図書館で子どもたちに本の読み聞かせや人形劇などを見せるボランティア団体)に参加するようになって、3年がたちました。

その間、児童室の様子を見聞きしたり、PTAのお母さんたちの話を聞いているうちに、子どもたちの本離れを実感しました。

みなさんに、図書館の児童室がどんなところが、そこにいる人たちがどんなことをしているのかを知ってもらいたい。図書館の児童室に遊びに来て、1冊でも大好きな本に出会ってもらいたい。そんな思いから図書館児童室をリポートしました。

《暖かなふれあいの場
市立図書館児童室》

児童室は、白い瀟洒な3階建ての図書館の1階にあります。

玄関を入ってすぐの扉を開けると身長約90cmの「クスリのサトちゃん(オレンジ色の象の人形)」が出迎えてくれます。一見ミスマツチのドアボーイですが、開館当初から子どもたちの人気者です。

サトちゃんに迎えられる中に入ると、右手の壁には「登別市ボランティアの会(障害を持つ子ども



▲児童室のドアボーイ「クスリのサトちゃん」

たちの訓練などにも役立つ布の絵本などを製作しているボランティア団体)が作成したキルト「せかいのこどもたち」が訪れた子どもたちに笑いかけています。

正面のカウンターの後ろや書架のあちこちには、児童室を訪れる子どもたちの作った折り紙や工作が並んでいます。

カウンターの後ろは、4畳半くらいのじゅうたん敷きの小上がりになっていて四方を取り囲むように絵本が並べられています。木漏れ日の差す穏やかな時間には、幼い子どもを連れた親子が絵本を読んでいるいたり、小上がりに置いてある縫いぐるみや布の絵本で遊んでいる姿が見られます。

児童室は子どもたちと児童室職員とボランティアの方、そして親子の暖かな交流が感じられるそんな

なところですよ。



▲登別市立図書館

《子どもたちの読書環境を
守りたい》

図書の貸し出しは0歳からで、「現在、6カ月の赤ちゃんが最年少利用者です」と、児童室職員の山口さんが笑って話してくれました。

児童室の利用者は、幼児から小学生がほとんどで、中学生や高校生はあまりいないそうです。高校生にこそ読んでもらいたい本もたくさんあるのに残念なことだと思います。

児童室での本の貸し出しは、平均すると月に約3千500冊。夏休みや冬休みは宿題のためもあり4千冊ほどで、年々減少傾向にあるそ

うです。塾や習い事のために、小学5・6年生ですら30分と図書館にすることができない現状を聞き、活字文化の未来を考えると、暗い気持ちになります。



▲児童室職員山口さんから話を聞く伊藤さん

しかし一方、貸し出しの低年齢化は、読書好きが増える明るい兆しとも考えられ、将来にわたり、この子たちの読書環境が脅かされないことを願うばかりです。

《いつかは本物に出会ってほしい》

児童室に置いてあるいろいろな本や紙芝居は、どれでも借りていくことができます。

貸し出しのトップは、何といっても絵本で、次いでテレビアニメの小説本が多いそうです。「読み

やすいものに手がのびるのは仕方ないとしても、そういう本が読み返されるのはまれで、いつかは本物に出会えるように利用者は少なくとも長く読み継がれた本は、絶対に棚からははずさない」と、山口さんは話してくれました。その言葉には、図書館職員としての思い入れが感じられ、うれしく頼もしく思いました。

児童室に通ってくる子どもたちの中には、児童室の大きなテーブルでお絵描きや折り紙を楽しむ子どももいて、この子どもたちにとって児童室は本を借りるだけのところではなく、遊ぶところでもあるようです。実際、児童室にはお手本になるきれいな絵本や、やさしく解説された折り紙やあや取りの本があ



▲児童室の小上がり

り、それらを片手に遊んでいるうちに、自然と本に親しんでいくのでしよう。

児童室には、職員が2名いて書架や購入した本の整理、破損した本の補修など、蔵書にかかわる仕事をしています。

児童室で、遊んでいる子どもたちの相手をするのも大切なことですが、貸出業務などに追われていてもできるわけはありません。

子どもを連れてきたお母さんが、我が子と一緒にほかの子の相手をしてあげたら、もっと楽しい児童室になるのではないのでしょうか。

貸し出しには、個人と団体があります。団体貸出は、今年から3つの市立幼稚園へ、読み聞かせ用に計450冊を毎月貸し出ししているそうです。そのほか、小学校の先生が教材用にまとめて数十冊借りていくこともあるそうです。

数が足りなかつたり、借りたい本がないときには、ほかの図書館からも借りてくれるそうです。

山口さんの話では「50冊くらいなら学級文庫への貸し出しも可能」とのことでした。

《みんなの力で夢のある環境を》

児童室では、本の貸し出しのほかにさまざまな行事を行っています。毎月第2土曜日には、切り絵や

折り紙教室、牛乳パックで作るはがきづくりなど、盛りだくさんです。

この行事も、児童室利用者の低年齢化に伴い、幼児や小学校低学年向けのものになってきています。

ちなみに11月には切り絵の上映が行われました。準備には、7月、9月、10月の第2土曜日に小学生11人、中学生1人、大人5人の協



▲切り絵製作をする児童室職員福田さん

力を得て仕上げたそうです。

第2土曜日を使つての切り絵は、3年前から始めたそうで、1年に1作のペースで作っているそうです。現在、切り絵はボランティアの協力を得て作った作品が全部で8作あるそうです。

そのほか児童室の財産として、「登別市ボランティアの会」が作っ

たエプロンシアター(注1)が7枚。「おはなしほけつと」が作った人形などがあり、演じ手と出番を待っている作品がたくさんあり



▲エプロンシアターを演じる伊藤さん

ます。

リポートをしていて、図書館児童室の運営には、多くの市民が協力していることに気がきました。

子どもたちを取り巻く環境を、大人たちが守り支えているのです。

この支えている手は、まだまだ足りなくて、子どものまわりから本が遠ざかつて行きつつあります。

子どもたちが、再び本を手にするように、図書館に遊びに行けるように、大人たちが手を貸したいものだと思います。

注1 エプロンを舞台に見立て、取り外しのできる小さな人形を使つてお話をします。

おめでとうございます

平成8年秋の叙勲、褒章で、市内にお住まいの次の方が受章されましたので紹介します。

秋の叙勲

●勲四等瑞宝章

議員活動32年間
まちの発展に尽力



うえむら ひでお
上村 秀雄 さん

鷺別町(74歳)

昭和34年の幌別町議会議員初当選以来、8期連続32年にわたり町議、市議を務め、この間、市監査委員、副議長を歴任され、市勢発展に尽力されました。

「今回の受章は、私ひとりでもらったのではなく、家族や多くの人が支えてくれたおかげだと思っています。大変うれしいです。

議員活動の中で思い出はたくさんありますが、印象深いのは市制実現に奔走したことです。いろいろと苦勞もしましたが、決まった時は本当にうれしかったです。

「多少でも市制実現の力になれたのかなという気がします」と思い出を振り返りながら、受章の喜びを語ってくれました。

秋の褒章

●藍綬褒章

議員活動25年間
地方自治の進展に尽力



こさか よしあき
小坂 義昭 さん

登別東町(62歳)

昭和46年登別市議会議員初当選以来25年間にわたり議会議員として活躍し続けており、社会常任委員長、副議長を経て平成7年から議長の要職を務め、地方自治の進展に尽力するとともに、まちづくりに貢献されました。

「今回の受章は、多くの皆さんに支援していただいたおかげだと思っています。

登別市は新しい総合計画の中でまちづくりがスタートしましたが、これからも25年間の経験をいかし一生懸命まちづくりに取り組んでいきたいと思っています」と受章の喜びを語ってくれました。

きらり

道端の空き缶などを拾い13年

清掃奉仕で地域に貢献



鈴木 光次さん（常盤町・81歳）

58年から空き缶拾いを始めました」

「朝5時30分ころ家を出て、約5kmの道のりを自転車で行きますね。コースも幌別の国道沿いや桜木町方面などいろいろで、3日おきにコースを変えているんですが、持って行く2枚のごみ袋も空き缶やびんなどで一杯になります。それでも始めたころに比べる」と最近は少なくなりましたよ。

「健康だからこの活動ができるんです。これからも続けていこうと思っています」と話す鈴木さん。これからも健康に留意され、頑張ってください。

「無理をしないことと、楽しんでやっているからじゃないですかね。家族も『事故のないように、今後も続けてほしい』とみんな応援してくれています」

「無理をしないことと、楽しんでやっているからじゃないですかね。家族も『事故のないように、今後も続けてほしい』とみんな応援してくれています」

「健康だからこの活動ができるんです。これからも続けていこうと思っています」と話す鈴木さん。これからも健康に留意され、頑張ってください。

「無理をしないことと、楽しんでやっているからじゃないですかね。家族も『事故のないように、今後も続けてほしい』とみんな応援してくれています」

「健康だからこの活動ができるんです。これからも続けていこうと思っています」と話す鈴木さん。これからも健康に留意され、頑張ってください。



▲ごみの仕分けをする鈴木さん

いきいきボランティア

愛情いっぱい手作り弁当！
在宅生活を支えるボランティア活動

常盤町の熊谷信子さんは、個人ボランティアとして、仲間たちと週4日、自宅でお弁当を手作りし、お年寄りや障害者の方々に夕食を届ける、給食サービスを行っています。

熊谷さんがこの活動を始めたきっかけは、生活学校「白秋の会」で給食サービスを知ったことと、16年のホームヘルパー歴の中で、お年寄りや障害者の方から折に触れ、このような給食サービスがあれば受けたい、という話がでていたことでした。

昨年9月、周囲の人たちの力強い後押しを受けてこの活動を始めたときは、利用者6人からのスタートでしたが、今では口コミで広がり19人、週48食にも増えました。

このため、熊谷さんたちだけでは配達が難しくなり、いろいろの方が配達を協力してくれるようになりまし

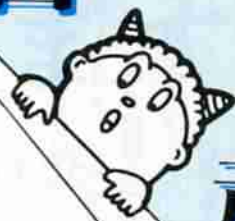


熊谷さんは、「献立を考え、調理することには得意なんですけど、味付けや栄養のバランスには気を使いますね。でも、この活動が続けられるのは、私たちが作るお弁当を心待ちにしている人たちがいることと、この活動を理解・支援してくれる人たちがいるからなんですよね」と話してくれました。

「ボランティアセンター」伝言板へボランティアセンターでは、次の活動をしてくれる方を探しています。ボランティアを受けたい方の相談にも応じています。お気軽にお電話ください。

- ・ 障害をもった方のため
- ・ の簡単な家事援助
- ・ 一人暮らしのお年寄りなどの話し相手
- ・ お年寄りや障害者を持つ方への外出介助

▼問い合わせ 登別市社会福祉協議会ボランティアセンター
(☎ 0860)



日ごろの練習の成果を発揮 老人大学・婦人短大合同大学祭

11月22日(金)、市民会館で登別市老人大学と登別市婦人短期大学の合同大学祭が行われ、約650人の学生が集いました。

舞台では、学生たちによる歌謡曲や舞踊、主張発表など21の演目が行われ、みなさん、この日を目標に練習を重ねてきた成果を十分に発揮しました。

また、11月生まれの方々にミッキーマウスに扮した婦人短大生からハート型の風船がプレゼントされるといっ粋な計らいもあり、会場はあたたかい雰囲気になりました。



リサイクルを推進するため 分別収集計画が策定されました

10月下旬、市は、登別市廃棄物減量等推進審議会からの答申を受け、「登別市分別収集計画」を策定しました。

この分別収集計画は、平成9年4月から施行される容器包装リサイクル法に基づき、「自然とともにくらす快適なまちづくり」「ごみの排出抑制とリサイクルを旨とした地域社会づくり」「市民・事業者参加型の展開」を基本的方向として、平成9年度から5カ年計画で定められました。

来年度からの資源ごみの出し方は、概ね今ままでおり「登別方式リサイクルシステム」を採用しますが、本格的には平成12年4月のリサイクルプラザ完成後からとなります。詳細については「広報のほりべつ」2月1日号でお知らせします。

▼問い合わせ 環境衛生課
(☎ 2958)



▲8月20日に開催された第1回策定委員会

「登別市緑化計画」策定へ

人と自然が共生できる、緑豊かなまちづくりへ

市では、家庭や街路、工場敷地、学校用地などの身近なみどりから遠くの大自然まで連なるみどりのネットワークづくりを行政と民間が一体となって推進するため、その指針となる「登別市緑化計画」の原案策定作業を進めています。

環境美化などに取り組み市民団体の代表20人で構成する策定委員会が原案作りを進め、その原案をもとに、平成9年3月をめどに、10年先を見据えた緑化計画が完成する予定です。



▲登別市廃棄物減量等推進審議会からの答申のようす

東 奔



柔道一直線!

第19回登別市民柔道大会

10月27日(日)、登別柔道連盟主催による市民柔道大会(団体戦、個人戦)が、登別大谷高校柔道場(青樹館)で開かれ、約100名の市民が参加しました。

個人戦は、幼児の部から一般の部まで行われ、小学生の部では試合前にお父さんと相手を打ち込みの練習をしている子や、試合で技を決められ半ばそをかきながら父母のもとに帰ってくる子もいました。

大勢の父母の熱い声援は、勝敗に関係なく子どもたちに送られ、子どもたちと父母の熱気が会場に満ちていました。



第32回登別市民文化祭「第19回合唱のつどい」

美しいハーモニーで市民を魅了

11月10日(日)市民会館大ホールで「合唱のつどい」(文化・スポーツ振興財団主催、文化協会コーラス部主管)が開かれました。

今年で19回目を数える「合唱のつどい」は、市内の合唱団の練習の成果の総決算として発表されたもので、前半では「登別フイメール・コール、ポニー・クラック、登別少年少女合唱団、女声コーラスしおさい、登別女声コーラスMFC」のみなさんの美しいハーモニーで、集まった市民約300人を魅了していました。

後半は、民謡をアレンジしたコーラスと吉田健一さん(室蘭東高2年)、白田路明さん(登別中1年)の津軽三味線による応援演奏が行われ、アンコールの声にこたえるなど、会場内から盛大な声援が送られていました。

仲間たち

歌うことの楽しさを伝えたい

登別女声コーラスMFC

代表 生 稲 泰 子 さん

☎056720



登別女声コーラスMFCは、

昭和40年4月に幌別婦人会サークル「おかあさんコーラス」として結成され、今年で31周年を迎えた、市内で最も長く続いている女声コーラスグループです。

現在、会員は20～60歳の女性19名で、合唱のつどいをはじめとして、市内外のいろいろなイベントに参加しています。

昨年は創立30周年を記念して、5回目の単独コンサートも開きました。

コーラスの魅力は、何といても歌うことと、会員それぞれの歌声が美しいハーモニーを奏でること、みなさんの声がびつたりあったときの充実感がとて

も良いそうです。

今は、12月1日に市民会館で行われるチャリティ演芸大会と、12月8日にアーニス広場で行われるクリスマスコンサートに向けて練習に励んでいます。

代表の生稲さんは、「今の課題は一緒に歌う仲間を増やすことと、楽譜が読めなくても大丈夫ですから、ぜひみなさんに歌ってほしいですね。会員が増えたら、また単独コンサートを開きたいです。いつか合唱コンクールに出場することが大きな目標です」と、話してくれました。

登別女声コーラスMFCでは、会員を募集しています。詳しくは生稲さんまでご連絡ください。

郷土史 点描

79

登別温泉の文化財

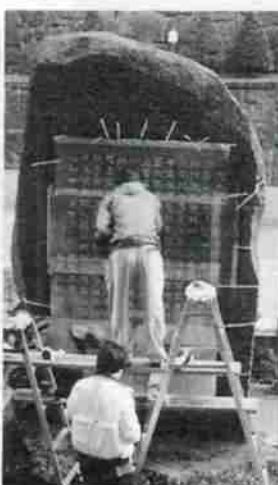
比田井天来揮毫の

「滝本金蔵・栗林五朔の頌徳碑」をめぐる(1)

登別郷土文化研究会 宮武 紳一



▲第一滝本館前にある頌徳碑と功勞碑



▶比田井天来書拓本の拓本とりのようす

去る10月18日、東京から書道の大家といわれる方々を中心に8名の書道家たちが登別温泉に來られた。

比田井天来の門下生に、書聖といわれた桑原翠邦・金子鷗亭らがいるが、今回は桑原翠邦の師範代を務めた浅沼一蓮氏、金子鷗亭の子息で日展審査員などを務める金子卓義氏、その他の5名も中央で活躍中の気鋭の面々で、天来の孫にあたる天来書院の代表、比田井和子氏も同伴され、登別から書宗院理事の榊甚錦州氏、それに登別の観光事業でご活躍の君島勝氏が世話役をなさっていた。

書道家たちの来泉の目的は、登別温泉第一滝本館の正面入口を過ぎた三叉路から地獄谷方面の道路に面して建てられている滝本金蔵と栗林五朔の功績を称えた頌徳碑の「碑文の筆跡」を特別の和紙に写しとり(拓本)に來たのである。頌徳碑は、自然石の台座の上に黒御影石の堂々とした立派なものでも誰でも気づく大きさである。

驚くことに、頌徳碑の表文字は頭山溝とある。彼は福山藩出身で明治の藩閥政治に反抗して投獄され、出獄後は超国家主義の玄洋社を結成、大アジア主義を唱え、特にロシアの中国・朝鮮進出に反発し国権論を唱え、朝鮮独立運動家や孫文の中国革命を支持、日本の大陸進出に政・財界を動かした明治・大正・昭和初期の右翼の巨頭であった。このような人物の名があることの関わりも興味深い。

さて、碑の裏面の文字が問題の書で、前記の書聖などを弟子として輩出させた明治から昭和初期の書道界の重鎮であった比田井天来の書である。

碑文の文字は、字画をくずさない楷書にちかい隸書体で、字は約7・8センチ大・271字が刻まれ、昭和13年7月とある。

天来は、同年の2月から4月末まで入院し、秋ごろから体調が思わしくなく、昭和14年1月4日不帰の客となっていたので、登別温泉の頌徳碑の書は、一時健康を恢復したときに「懇請をこめ一氣に揮毫した碑文としての最後のものであろう」ということを懇親会の席で代表の浅沼一蓮氏が話された。

比田井天来という書道界の重鎮の見事な書を刻んだ碑は、登別にあって素晴らしい文化財である。

さて、頌徳碑は登別温泉の開拓に大きな功績を残した滝本金蔵翁・栗林五朔翁を讃えて建立したものである。

である。

滝本金蔵は文政9年(1826年)武蔵国の本庄村(埼玉県本庄市)の農家に生まれ江戸に出て大工になったが、小田原の茶屋の滝本左多に婿入りし、安政5年(1858年)登別に來たという。以後の金蔵は、幌場所請負人岡田半兵衛の開いた後を受けような形で登別から温泉までの道路を開削し登別温泉に湯宿を造るなど、登別温泉の開拓に74歳の生涯を終えるまで尽力している。湯宿を「湯元の滝本」と正式に命名したのが明治18年(1885年)。「滝本館」となったのが2代目金之助が家督を継いだ2年目の明治33年で、登別温泉の名声と共に滝本館の名が全道・全国的に高まってきた。

栗林五朔の名は、室蘭で良く知られた名であるが、登別との関わりを知らない人が多いと思う。

しかし、登別温泉と登別間に馬車軌道を敷き、ストライキや脱線事故のため蒸気機関車にしたが、煙筒の煙や火の粉が飛び散り乗客も大変。遂に電車を走らせ登別温泉の近代化をはかったり、登別に製銃所を造り世界に誇る銃鉄を生産したこと。更の上登別と中登別のユートピア牧場で名馬ライシシャワーが菊花賞・天皇賞で入賞する。五朔以来の登別との関わりである。さて、頌徳碑の金蔵・五朔・頭山・天来の関係はどうであろうか。

あらがると

情

公民館講座

手打ちで年越し手打ちそば健康教室

- ▼月日 12月19日(木)、12月20日(金)
- ▼時間 9時30分～13時(希望する日をどちらか選択して申し込みください)
- ▼場所 文化伝承館
- ▼講師 登別そば研究会 山下利夫さん
- ▼参加料 150円
- ▼定員 各日10名(申込順)
- ▼持参するもの 大きめのボール、胸からあてがうエプロン、包丁、ふきん
- ▼申し込み・問い合わせ 12月9日(月)～11日(水)までに社会教育課 (☎1100)

四季のしらべ

「クリスマスコンサート」
～コーラスの集い～

- 市民コーラスサークル5団体の、あたたかな歌声をお聞きください。
- ▼日時 12月8日(日) 14時～
- ▼場所 アーニス広場
- ▼入場料 無料
- ▼参加団体 文化協会コーラス部(女声コーラスしおさい)、登別女声コーラスMFC、登別フイメール・コール、ボニー・クラ

ツク)、登別少年少女合唱団 ※各サークルでは、会員を募集しています。

▼申し込み・問い合わせ 社会教育課 (☎1100)

公営住宅の入居者募集

空家住宅の募集を行います。▼募集団地

団地名	道営・市営	住所	構造	家賃	空家戸数	
					1種	2種
幌別東団地	道営・市営	幌別町8丁目	3 D K	21,100円～30,100円	27戸	0戸
柏木団地	道営・市営	柏木町1丁目	3 D K	31,300円～32,500円	8戸	0戸
緑ヶ丘団地	市営	常盤町3丁目	2 L D K	30,900円	2戸	0戸
幌別西団地	市営	片倉町5丁目	2DK(浴室なし)	9,200円～13,400円	6戸	2戸
登別東団地	道営	登別東町5丁目	3 D K	27,300円	6戸	0戸

※緑ヶ丘団地の募集対象は、50歳以上の夫婦世帯のみ。

▼申込資格 入居申込者の平成7年の収入総額が、次の表の範囲の方で、市内(道営は道内)に居住または通勤し、現在同居している方、または同居しようとする方(婚約者など)があること

▼収入基準表(給与所得者1人の場合)

扶養者	第1種	第2種
1人	2,732,000円～4,083,999円	2,731,999円以下
2人	3,232,000円～4,523,999円	3,231,999円以下
3人	3,716,000円～4,959,999円	3,715,999円以下
4人	4,152,000円～5,395,999円	4,151,999円以下
5人	4,588,000円～5,835,999円	4,587,999円以下
6人	5,028,000円～6,271,999円	5,027,999円以下

※同居親族に収入がある世帯は、問い合わせください。

▼申し込み・問い合わせ 建築課 (☎4399)

農業委員会委員選挙人名簿の登録申請をしましょう

平成9年1月1日現在、登別市に住所があり、平成9年3月31日現在で20歳以上の方で次の①～③に該当する方は、農業委員会選挙人名簿への登録申請をしてください。

- ①面積30アール(3反歩)以上の

農地で耕作の業務を営む方

②前記①の方と同居している親族、またはその配偶者で年間60日以上農業に従事している方

③面積30アール以上の農地で耕作の業務を営む農業生産法人の組合員または社員で、年間、原則150日以上農業に従事している方

▼申請方法 所定の様式に必要事項を記入し、1月10日(金)までに持参または郵送ください

▼申請・問い合わせ 農業委員会事務局(市役所内☎9190)

登別市民プール

閉館のお知らせ

登別市民プールは、12月16日(月)から3月31日(月)まで閉館します。

▼問い合わせ 文化・スポーツ振興財団(☎1116)

登別高校定時制から

一身体験入学のお知らせ

平成6年度から、働きながら学ぶ青少年だけではなく、広く教養を高めたり、新しい技能を求める社会人や主婦の方に生涯学習の場として積極的に学校を開放しています。

今年、30～70歳代の市民の方15名が、書道、ワープロ、生物、国語などで楽しく学んでいます。

一身体験入学で、社会人の方の学習の様子をご覧いただき、夜間定時制で学ぶことの楽しさを体験ください。

第2回平和のための

戦争写真展

- ▼月日 12月6日(金)～8日(日)
- ▼場所 登別サテイ 2階ギャラリー
- ▼入場料 無料
- ▼内容 空襲空襲・艦砲射撃の記録写真、沖縄に関する写真、戦争に関する資料の展示、ビデオ上映、平和のためのミニコンサート(8日(日)のみ)
- ▼問い合わせ 平和のための戦争写真展実行委員会事務局渡辺さん(☎9454)または松本さん(☎5264)
- ▼申し込み・問い合わせ 登別棋道連盟 (☎1253)

第18回登別市長杯争奪新春囲碁大会

～登別棋道連盟主催～

- ▼月日 平成9年1月19日(日)
- ▼時間 11時～(受付10時～)
- ▼場所 富士会館
- ▼参加料 会員500円、一般1千円
- ▼問い合わせ 登別棋道連盟 (☎1253)

